

『脳卒中地域連携クリニカルパス』

静岡県東部・伊豆地域統一パス運用へ向けて



脳神経外科 部長 松澤 裕次

○キックオフミーティング

平成23年12月18日三島市において、静岡県東部・伊豆地域の脳卒中急性期病院・回復期リハビリ病院・診療所クリニックなどの医療機関が集まり、脳卒中地域連携クリニカルパスのためのキックオフミーティングが開催されました。

○地域でみる脳卒中診療

“医師不足”・・・もうかなり以前から言われている言葉ですが、脳神経外科医は他の診療科と比べてもかなり厳しい状況です。そのため、以前は脳卒中救急・治療（急性期リハビリを含む）・手術・外来でのフォロー・二次予防など全てをカバーしていたわけですが、これからはどうしても急性期病院が担当しなければいけない部分のみをおこない、それ以外は他の医療機関に分担していただくように変化しなければなりません。また、そのほうが長い目でみると患者様の利益になると思われまます。具体的には、脳卒中発症の患者様は手術やt-PA（血栓溶解療法）などの治療可能な脳外科急性期病院で入院加療を受けます。全身状態が安定すれば、早期に回復期リハビリ病院に転院します。充分なりハビリ治療が終了して自宅退院し、その後は地域のかかりつけ医の診療所で二次予防を行います。重症の方は、訪問看護サービスを受けます。

○脳卒中連携パス

地域で脳卒中診療を連携してみるとときに必要になってくるのは、患者様のリレーをする医療機関同士が同じ考え・コンセプトを持ち、シームレスな治療を行うことです。このときに、ツールとして役立つのが「地域連携クリニカルパス」、略して「連携パス」です。必要な情報をコンパクトにまとめ一貫性をもち、関連するどのスタッフが見ても理解しやすい「マニュアルと記録」です。そしてこの連携パスが地域で統一されていけば、患者様を引き継ぐ回復期リハビリ病院・診療所・訪問看護ステーションなどにおいても、作業的にも精神的にもストレスを軽減できます。また、その結果が急性期病院にフィードバックされやすくなります。尚、この脳卒中連携パスは、診療報酬にも反映されています。

脳卒中連携パスは、本年4月頃より運用開始の予定です。脳卒中連携パスが長期間運用されることにより、当地域の脳卒中診療の質の底上げと、患者様とご家族の満足度の向上が期待されます。

*「クリニカルパス」・・・傷病ごとに治療・検査・看護ケア等の内容を一覧表にしたもの。
「地域連携クリニカルパス」・・・患者様が発症した「急性期」から集中的なりハビリなどをする「回復期」、生活機能維持のためのリハビリをする「維持期」まで、切れ目のない治療を受けるための診療計画一覧表。

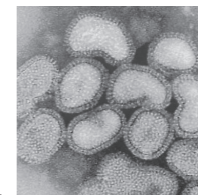
当院は敷地内全面禁煙です。ご理解・ご協力をお願いします。

聖隷沼津病院の片隅から…つばやく検査技師①

「インフルエンザについて」

＜インフルエンザの名前の由来＞

インフルエンザという用語は14世紀のイタリアのフィレンツェで、「寒さの影響」「星の影響」を意味する言葉としてインフルエンツァ (influenza) と呼ばれていたことがその起源の様です。インフルエンザにはA型、B型、C型の3つのタイプがあります。A香港型、Aソ連型などが有名です。その年により流行する型が変わります。またやっかいな事に同じ型でも毎年微妙に形を変化させますので、以前にインフルエンザにかかっていた免疫も役に立ちません。毎年かかる可能性があるのです。インフルエンザには大流行のたびに名前がつけられているので、1918年のスペイン風邪(H1N1)、1957年のアジア風邪(H2N2)、1968年のホンコン風邪(H3N2)、1977年のソ連風邪(H1N1)などが有名です。

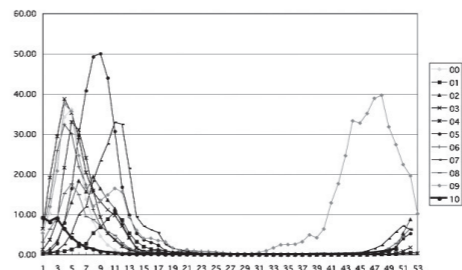


＜インフルエンザの陽性傾向＞

下のグラフは国立感染症研究所が過去10年間のインフルエンザの陽性傾向を示したグラフとなります。縦軸に定点あたりの報告数、横軸にその年の1月1日から毎週の週間報告を示します。グラフを見て分かるように2009年以外の年は43週頃から陽性者が現れ始め、翌年の20週には終息しています。しかし新型インフルエンザが猛威を振った2009では31週頃から現れ始め、翌年の26週までと、ほぼ一年間陽性者がいました。

さて、去年はどうだったでしょうか？去年は2009年度より続いた新型インフルエンザが例年より早い12週までに落ち着き、46週まで陽性者は現れませんでした。11月の終わり頃から徐々に陽性者が出現し、現在（1月15日）では日に8件程の陽性者が出ています。

寒い日が続きますが、みなさんワクチンはもう接種しましたか？うがい・手洗いを充分にして、インフルエンザに気をつけて下さい。



芙蓉協会の歴史(最終回) 『聖隷沼津病院②(1991～)』

平成6(1994)年頃には1日の外来患者数は520名程となり、外来スペースの拡張が必要になってきた。立正佼成会沼津教会の土地(現在のA棟)の委譲が決定したため、新病院を建築移転し、新館を透析センターとすることになった。

平成8(1996)年、地下1階・地上7階建ての新病院(現在のA棟)・許可病床240床が完成、法人も聖隷沼津健康診断センター(聖隷沼津第一クリニック)、透析センター(第二クリニック)、在宅医療部と施設整備が行われた。そして、平成16(2004)年には、B棟を建築し、許可病床306床となり、透析センターがB棟に移転したことにより、聖隷沼津第二クリニックは廃止された。

また、価値ある医療サービスを目指し、医療機関では県下初となる品質マネジメントシステムのISO9001:2000の認証取得(現在ISO9001:2008認証施設)を行った。平成22年には、健康診断センターでも、医療機関では県下初の情報セキュリティシステムISO/IEC27001:2005の認証取得を行った。

これからも地域の皆様の期待に応え、いつでも安心して利用していただける医療機関であることを目標に努力していきます。

文責：法人本部事務局 事業企画室 笠原典彦

